

(様式3)

令和元年度第1回エネルギー構造高度化・転換理解促進事業評価報告書

補助事業名	松江市内の地熱活用によるエネルギー構造転換促進事業 (地熱エネルギー等活用研究事業)
補助事業者名	松江市
補助事業の概要	市内の地熱を中心とした再生可能エネルギーの産業振興・地域振興への活用方法に関する研究を国立大学法人島根大学と連携して実施し、再エネの理解促進と普及を図るもの。
総事業費	17,342,000円
補助金充当額	17,342,000円
定量的目標	大学の専門的な知見をもとに、地熱資源を中心とした再生可能エネルギーの理解促進や産業分野への活用方法に関する研究を5つのテーマに沿って行った。 ①再生可能エネルギーエコパーク構想事業 ②熱帯果実類の栽培・収穫体験事業 ③朝鮮人参・薬草類等健康志向作物事業 ④さつまいもの差別化栽培・加工・ブランド化事業 ⑤地域をイメージできる水産物のブランド化事業 研究に関する報告書一式
補助事業の成果及び評価	令和元年度事業について、上記報告書一式の受領をもって成果を確認した。また、定性的な評価については次のとおり。 ①再生可能エネルギーエコパーク構想事業 再エネの理解促進を目的とした説明用展示パネルの作成を進めるとともに、再エネの利用を促進するための次世代材料・技術の研究を進めた。また、再エネの普及や理解促進を目的とした全国の施設(科学館、展示館等)を視察し、再エネに関する教育コンテンツ等の草案を検討した。 これまでの調査・研究をもとに、再エネの理解促進を目的とした教育コンテンツの製作につなげていくことができる。また、本補助事業を活用することにより、再エネの利用を促進するための次世代材料・技術の研究も着実に前進している。 今後も研究を進め、市で整備を検討中の再エネ理解促進施設「エコパーク(仮称)」での活用を目指す。

## ②熱帯果実類の栽培・収穫体験事業

地熱を活用した熱帯果樹やトマトの加温栽培を試験するもの。熱帯果樹の生育調査やトマトの高品質化・高収量化について研究を進めた。併せて、熱帯果樹の栽培にあたり先進地を視察し、栽培方法に関する情報収集も行った。また、当該研究を産業分野へつなげるための加工品開発にも着手した。

熱帯果樹の生育調査やトマトの高品質化・高収量化についての研究が進み、加工品の開発に着手することができた。このことは当該研究を産業分野へつなげるための大きな一歩になったと考えている。また、本補助事業を活用して熱帯果樹栽培に関する先進地視察を行うことにより、貴重な情報収集ができています。

## ③朝鮮人参・薬草類等健康志向作物事業

松江市八束町で行われてきた慣行の朝鮮人参栽培について、地熱を活用した加温処理を苗生産の段階で施すことにより、早期収穫・高収量技術の開発研究を進めるもの。異なる栽培条件で種子の発芽効果を検証するとともに、苗の生育調査を行った。

朝鮮人参の早期収穫・高収量技術の開発研究が進み、新たな栽培方法の確立や育苗施設の計画立案につなげていくことができる。

今後も研究を進め、良質な苗の安定供給の実現を目指す。

## ④さつまいもの差別化栽培・加工・ブランド化事業

地熱を活用した高糖度のサツマイモ生産を目指し、種苗生産と茎葉の生育調査を進めた。また、加工品開発にも着手し、加工品にふさわしい高糖度サツマイモ品種の選定に関する比較実験や食味調査を行った。併せて、地熱活用による収穫したサツマイモの長期保存技術開発のための研究を進めた。

高糖度のサツマイモ生産に向けた生育調査が進み、加工品開発に着手することができた。このことは当該研究を産業分野へつなげるための大きな一歩になった。また、収穫したサツマイモの長期保存技術の研究も進み、栽培指針の立案につなげていくことができると考えている。

## ⑤地域をイメージできる水産物のブランド化事業

ヨシエビは宍道湖・中海を代表する水産物であるが、天然の漁獲が極めて少ない。このヨシエビについて、地熱を活用した加温養殖の実現を目指し、宍道湖・中海における生態調

	<p>査や飼育試験、先進地視察等を行った。異なる飼育条件を比較し、ヨシエビの好適環境を検証した。</p> <p>ヨシエビの加温養殖の実用化に向け、宍道湖・中海における生態調査や飼育試験を行うことにより、必要なデータを収集することができた。</p> <p>今後も研究を進め、加温養殖の可能性を検討していく。</p>	
補助事業の実施に伴い締結された売買、貸借、請負その他の契約	契約の目的	本市のエネルギー構造転換の取り組みを推進するため、大学の専門的な知見をもとに、地熱を中心とした再生可能エネルギーの理解促進や産業分野への活用方法の研究を行うもの。
	契約の方法	随意契約
	契約の相手方	国立大学法人島根大学 学長 服部 泰直
	契約金額	17,342,000 円
来年度以降の事業見通し	<p>次年度以降も本補助金を活用し、再生可能エネルギーの理解促進及び普及に向けて取り組みを進める。</p> <p>地熱を中心とした再エネの活用策について研究を継続するとともに、玉造温泉地域において地熱生産井の開発を進め、再エネの理解促進のための地熱発電施設及び温泉水の二次利用施設等を整備する。</p>	

(備考)

- (1) 定量的成果目標の欄には補助金応募申請書提出時に設定した成果目標をそれぞれ記載すること。
- (2) 補助事業の成果及び評価の欄には、(1) で記載した内容に対応した、定量的な成果実績と評価を記載すること。それ以外にも、定性的な成果実績や、進捗度、利用量並びに効果等といった別の定量的な指標があればできる限り数値を用いて記載すること。
- (3) 契約の方法の欄には、一般競争入札、指名競争入札、随意契約の別を記載すること。間接補助を行った場合は、記載不要。
- (4) 来年度以降の事業見通しの欄は、本事業に来年度以降も補助金を充当しようとする場合のみ記載。